

○令和5年度 教育事業 「みんなの登山物語～登山を通して脳力を鍛えよう～」

(R5.8月8日(火)～10日(木)【2泊3日】)



◆目的

今まで学校で学んだ知識や経験を関連付けながら、登山の準備や実践を行うことにより、今後の学習における探究力を高める一助とする。

◆参加実績(定員25名)

参加23名

- ・上川町 1人
- ・旭川市 8人
- ・東神楽町 1人
- ・富良野市 4人
- ・上富良野町 2人
- ・当麻町 3人
- ・鷹栖町 1人
- ・中頓別町 1人
- ・苫小牧市 2人

(小学5年生:8人、6年生15人  
/ 男子12人、女子11人)

【2泊3日】

1日目

- ①チームワークを高めよう(60分)  
アイスブレイクを通して、グループの仲間や参加者同士の関係作りを行った。
- ②登山の計画を立てよう(210分)  
宿題で取り組んだことをグループで共有して、グループで一つの登山計画を立てた。  
十勝岳の模型や地形図を確認し、休憩する場所や歩くペースなどを話し合い、道具の準備などを行った。

2日目

- ③望岳台まで登ろう(交流の家～望岳台)(300分)  
グループで考えた登山計画を元にして、登山を行った。  
登山道がわからなくなったり、計画通りに進まないグループもあったが、話し合い、励まし合いながら協力して登山を行った。



#### ④軽登山のふり返り（60分）

実際の登山を終えて、自分たちの計画通りにいったかなど、良かった点や改善点などを話し合った。

#### ⑤登山の計画を立てよう（180分）

軽登山の振り返りを元に、次の日の登山の計画を立てた。十勝岳の模型や地形図を確認し、休憩する場所や歩くペースなどを話し合い、道具の準備などを行った。



### 3日目

#### ⑥十勝岳に登ろう（望岳台～スリバチ火口）（400分）

グループで立てた登山計画をもとに、登山を行った。天気が良く、気温が高かったため、体力的に厳しい面もあったが、自分たちで協議しながら服装を考えたり、計画を修正したりしながら、ゴールを目指した。時間的な制約などがあり、1グループだけがゴールに到達した。



#### ⑦ふり返り（60分）

事業を通して学んだ知識や技術、身に付いた力を今後どのように活用したいかを考え、ふり返りシートに記した。



#### ◆事業運営・企画のポイント

○参加者が活動に集中できるように、天候や登山道などの安全管理は職員が行う体制を取り、参加者が自分たちで考えた計画をもとに主体的に登山活動を実践できる環境を整えた。また、参加者の安全を考え、職員やボランティアを各グループに配置した。

○参加者が自分たちで考えたり、グループで協議して意思決定をできるようにするため、職員やボランティアは軽微なアドバイスにとどめ、参加者が自ら考えて答えを出せるようにした。

#### ◆参加者の声

□リーダーとして、みんなの意見をまとめたり、協力して困難を乗り越えることができた。今後の学校の行事などに生かしていきたい。

□自分のことは自分でやれたと思う。これからも色々な場面で人任せにするのではなく、自分で考え、行動するようにしていきたい。

□途中で体調が悪くなるなど、予想外のハプニングがたくさんあったが、みんなでどうしたら良いか話し合い、対処することができた。

□地図の距離を測って、縮尺を使うことで、実際の距離を調べることができた。

□道に迷って、どちらの道に進むかを決める際、自分の思いや考えを伝えて、仲間と話し合いながら進むべき道を決めることができた。

#### ◆事業の成果

①参加者は学校での既習事項をもとに、等高線や縮尺を活用して、地形図から実際の距離や高度について考えることができるようになった。

②登山の知識や学校で学習した知識を活用することで、今までの学習を小学生の力でも登山を行うことができた。

③仲間と話し合いながら登山をすることで、目標のために自分の意見を伝える重要性に気付くことができた。

④天候や登山道の安全管理は職員が行い、参加者は自分たちの活動に専念できるような体制を取っていたため、道迷いなどの失敗があってもそこから学びを深めることができた。

⑤足が痛かったり、途中で下山したりした参加者も、事業終了後は次も参加したい意志を示すなど、苦しい思いをしても楽しさを感じられる事業になった。